

## 平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成30年3月30日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	池田 隆英
研究課題	就学前保育の実践課題に応えるカンファレンスによる地域貢献研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	池田隆英	保健福祉学科・准教授	教育学、社会学	調査研究の企画、実施、分析、総括	
	分担者	樟本恭之 岡田典子	比治山大学短期大学部・教授 山陽学園短期大学・講師	教育学 教育学	実地調査の補助、実地証左の分析・考察 実地調査の補助、実地証左の分析・考察	
研究実績の概要	<p>近年、保育者の量的拡大を遂げた保育現場において、保育者の質的向上は法令や政策に位置づく喫緊の課題である。これは、単なる就学前保育の課題に留まらず、子育て支援に貢献する、国家や自治体における課題でもある。申請者らは、本学特別研究助成費による一連の研究として、保育者が子どもを理解・援助するためのフレームワーク（以下、「フレームワーク」）を集約し、保育カンファレンスに役立つ素材を開発してきた。議論の道筋を示す「リーフレット」、量的分析を行う「チェックリスト」、質的分析を行う「観察シート」である。今年度、本研究においては、一連の研究成果に基づく保育カンファレンスを行うとともに、「リーフレット」の改訂および「事例・様式集」を作成した。</p> <p>本年度は、こうした研究活動の延長として、保育者の力量形成に寄与するよう、保育現場の要望に沿って、（１）「リーフレット」の解説や「観察シート」の作成をし、（２）これらを活用しての保育カンファレンスを実施し、（３）「リーフレット」の改訂および「事例・様式集」を作成した。</p> <p>（１）カンファレンスのための「客観的指標」の作成  ・「フレームワーク」に基づき、定性的な調査結果を参考に、保育者が実践を振り返れるよう、対象理解の観点を組み込んだ「観察シート」を作成した。  ・これまでの研究成果、保育現場での指導・助言や研修・講演を参考に、保育の基本的要素を網羅した「リーフレット」（ver.4）を作成した。  なお、計画の時点で記載していた「マトリクス」に基づく「チェックリスト」は、保育者自身が自己分析のために用いるもので、今年度は要望がなかったため作成していない。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>(2) 「客観的指標」を用いたカンファレンスの実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「リーフレット」は、保育職務の全体像であるため、保育現場の要望に沿って、これを保育カンファレンスの「議論の道筋」として利用した。</li> <li>・保育実践をビデオ撮影したデータをもとに、「観察シート」によって分析し、その分析結果を園に提供し、保育実践の振り返りに活用した。</li> </ul> <p>なお、「チェックリスト」の作成・活用は行わなかったが、保育カンファレンスを行っている市保協の要望により、「指導法のアンケート」を作成・実施した。</p> <p>(3) カンファレンスで活用する「事例・様式集」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の市保協における保育カンファレンスを実施したことを踏まえて、保育カンファレンスの様式の活用方法を集約し、「事例・様式集」を作成した。</li> </ul> <p>力量形成の検証のためには、複数年（複数時点）のデータに基づく縦断研究を行う必要があることから、単年度の研究では不十分となる。今後は、研究成果を協力園や関係機関に還元していくことを念頭に、「客観的指標」を用いた保育カンファレンスによる縦断研究ができるように準備を進めたい。</p> <p>なお、「事例・様式集」を関係する保育協議会に配付することはできるが、ウェブ上での公開は慎重に検討する必要がある、今後の課題である。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『保育カンファレンスのための事例・様式—定量・定性の「客観的指標」の活用』</li> <li>2. 『子どもの理解と援助の「フレームワーク」—臨床的な保育のためのリーフレット (ver.4) 』</li> </ol>